



## ガリガリ君 E-mail 通信

令和6年7月(第189号)

下水道既設管路耐震技術協会

今月号では能登半島地震で被災した3都市への寄付金の贈呈、今月末から始まる下水道展への出展概要を中心に、施工管理者講習会、技術者研修会関係の情報などをお送りします。

### ○ 能登半島地震被災調査3都市へ寄付金を寄贈

6月25日、今回の地震で被災した石川県内の市町のうち、3月に追跡調査に協力いただいた金沢市、羽咋市、かほく市の3市へ、下水道施設復旧に向けた寄付金を贈呈しました。

3市とも、市議会開催中や終了直後のお忙しい中でしたが、松田滋人 金沢市公営企業管理者(写真-1)、油野和一郎 かほく市長(写真-2)、田中哲也 羽咋市上下水道担当課長(写真-3)に、本協会よりの寄付金目録を贈呈しました。



写真-1 金沢市



写真-2 かほく市



写真-3 羽咋市

### ○ 下水道展'24 東京が開催されます

#### 1 開催概要

今年度の下水道展'24 東京の開催概要は以下の通りです。

名称：「下水道展'24 東京」

会期：2024年7月30日(火)～8月2日(金) 10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 東展示棟1・2・3ホール

出展規模：366社・団体(昨年度'23 札幌 299社・団体)

出展位置：3-125(2小間 3m×6m)

#### 2 本協会の展示内容

##### (1) 出展のコンセプト

- ・ 前回下水道展'22 東京と同じ2小間での出展で、目につきやすく明るいブースデザインとしています。特に今回は、能登半島地震で地震被害への関心が高まっている機会

を捉え、下水道施設の被害状況や地震対策の基本的な仕組みをわかりやすく理解できる、一般を含め広い職種を対象とした展示内容とします。

(2)展示項目

① ブースデザイン (図-1)

- ・ 正面の壁面は、協会パンフレットの表紙デザインを利用し、色は上部を緑色、下部の帯をオレンジ色、床面を水色の協会カラーとしています。
- ・ 能登半島地震被害を紹介する写真コーナーを向かって右壁面に設けます。



図-1 ブースデザイン

② 展示内容

- ・ 耐震のしくみをわかりやすく説明するための3工法の模型と消散弁の展示。
- ・ 例年好評をいただいている液状化実験と子供向けの簡易液状化実験を実施。
- ・ パネル展示として、耐震3工法の説明パネルの他、管路耐震化の考え方、液状化の原理、協会員のリストのパネル展示。
- ・ 能登半島地震の被災状況写真の展示。

○ 施工技術者研修会が終了しました

今年度の既設人孔耐震化工法(ガリガリ君)、フロートレス工法の施工技術者研修会が終了しました。

例年通り日本ヒューム(株)熊谷工場内で、ガリガリ君は2日間、フロートレス工法は4日間実施され、41名(昨年度 54名)の方が受研しました(写真-4~5)。

各工法の実施結果は表-1のとおりです。

表-1 技術者研修会受研者数

工 法	実施日時	延べ受研会員社数 (社)	受験者数 (人)
既設人孔耐震化工法	6月12~13日	4	18
フロートレス工法	6月18~21日	6	23
計		10	41



写真-3 ガリガリ君 実習前の机上研修



写真-4 ガリガリ君 実習の様子

## ○ 東海北陸支部の支部総会が開催されました

6月25日、東海北陸支部の第16回支部総会が金沢市内で開催されました。

総会には19社の23名の他、本部から来賓として中坪事務局長が出席し、令和5年度の事業・決算報告、令和6年度の事業計画案・予算案の4議案と今回任期満了となった役員の改選案の、合わせて5議案が事務局より提案され、満場一致で採決されました。なお、役員の変更はありませんでした。



写真-5 田邊支部長の挨拶

## 協会からのお知らせ

## ○ 耐震一発くん施工管理者講習会・施工技術者研修会の開催について

令和6年度の施工管理者講習会及び施工技術者研修会を下記により開催します。

### ■ 施工管理者講習会（机上研修）

日時：7月17日（水）、18日（木） 10：00～12：00（受付9：45）

会場：草加市立新里文化センター

### ■ 施工技術者研修会（実技研修）

日時：7月17日（水）、18日（木） 13：30～16：30

会場：㈱メーシック谷塚事業所

- ・ 受講者には実施要項を送りましたので、当日欠席の無いようお願いいたします。
- ・ 実施要項の留意点に記載している、当日の持ち物などの確認をお願いいたします。
- ・ 実地研修者は模擬模型操作にあたり、軽作業可能なヘルメット・服装の着用をお願いいたします。
- ・ 机上研修会場は駐車場が限られていますので、近隣駐車場もご確認されたうえで、ご来場をお願いいたします。
- ・ 不明の点は、本協会事務局（担当 荻原・オギワラ）まで  
電話 03-3437-6454

## ○ 最近のニュースから

- 5月31日、総務省の地方財政審議会より「地域経済の好循環及び持続可能な地域社会を実現するための地方税財政改革について」の意見書が総務大臣に提出されました。本意見書で、能登半島地震に因る上下水道施設の被害と管路の耐震化率が遅れている状況を踏まえ、災害に強い持続可能な上下水道の整備に向け、適切な財政措置や地方自治体への支援の在り方等を速やかに検討すべきとしています。
- 6月7日、建設業法と入札契約適正化法の改正案が参議院で可決成立しました。本改正は建設業の持続的な発展に向けての技能者の処遇改善策の制度化を図るもので、労務費の基準の作成、資材高騰に伴う労務費へのしわ寄せ防止、工期ダンプの禁止などを柱としており、2025年の全面施行に向け関連する政省令やガイドラインの整備を段階的に進めるとしています。

- 6月14日、外国人労働者の育成就労制度の設置を柱とする、入管法・技能実習法の改正案が参議院で可決、成立しました。これまでの「技能実習法」が「育成就労法」に改められ、外国人労働者の各種能力の育成目標の作成・認定やそのための体制整備のほか、権利の保護も強化されます。また改正された入管法では、育成就労の創設の他、不法就労への厳罰化、永住許可の要件の明確化などが盛り込まれています。

#### 編集後記

・能登半島地震から半年が過ぎました。復興支援金を届けに3市を回りましたが、途中立ち寄った内灘町の大規模な側方流動の被害地は、3月の追跡調査の際立ち寄った当時と状況が変わっておらず、今なお下水道が使えず、屋外の仮設トイレが残されており、復旧への道のりの厳しさを感じました。

・かほく市、羽咋市、金沢市の海岸沿いの地区でも側方流動や液状化で下水道管路施設に大きな被害が生じ、今なお2次調査が続けられています。本格的な復旧が始まるのは8月以降になるとのことで、下水道管が損傷した管路では、今なお地上配管によるポンプ圧送が行われていました。

・かほく市の油野市長のお話では、側方流動のあった地区では土地の区画が大きく変わってしまっており、境界画定の方針も定まっていない中では施設の復旧にも手が付けられない状況とのことでした。

・右上の写真は内灘町の側方流動の状況です。家の後ろに見える木の生えた小高い場所が砂丘となっており、地震時に砂が流動化しバランスが崩れたため、砂丘部の砂が左方向の海に向けて流れ落ちたと思われます。家屋そのものは無傷に見えますが、砂地盤と一緒に移動しており、多くの家の玄関には「危険」の表示がされ、居住も取壊しも出来ない状況が続いています。

・今月の写真は、大きな亀裂の入った金沢城の石垣です。今回の地震で石垣のあちこちが崩落してブルーシートがかけられ、城内もいたるところが通行禁止となって、保全措置が取られています。ここでも他の施設と同じように復旧がなかなか進んでいないようです。



内灘町の側方流動の惨状